愛知県　在宅医療連携拠点推進事業
第1回　中間報告会　：愛知県庁自治研修所７階　大教室
平成26年　4月　17日(木)

○愛知県在宅医療連携拠点推進事業の説明
○全国の在宅医療推進事業の取組み紹介

独立行政法人国立長寿医療研究センター
在宅連携医療部　後藤友子

その前に・・・・・
地域包括ケアシステム構築
在宅医療推進の社会的背景を確認

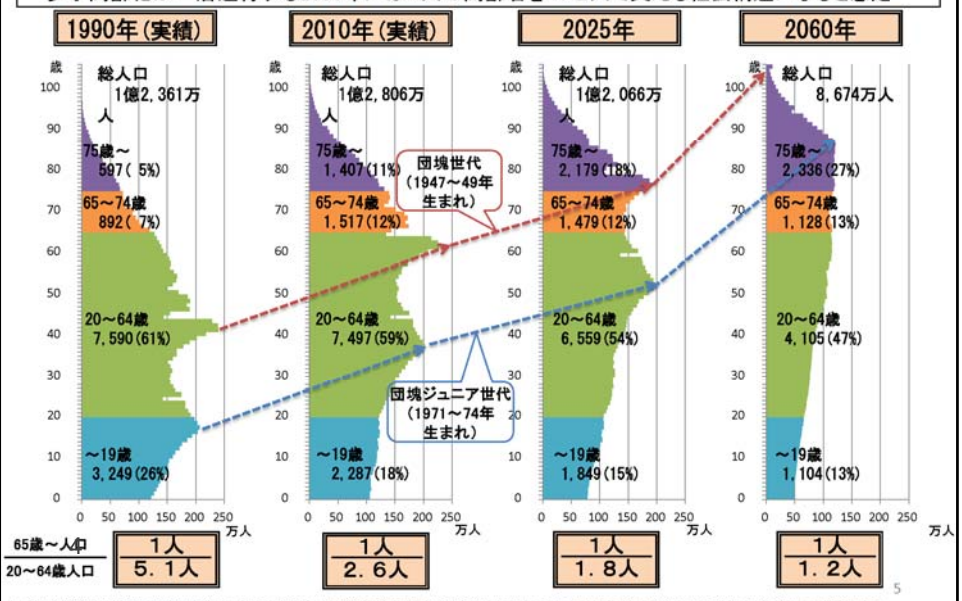
2

世界最速で超高齢社会を迎えた日本

3

人口ピラミッドの変化（1990～2060年）

○ 日本の人口構造の変化を見ると、現在１人の高齢者を２．６人で支えている社会構造になっており、少子高齢化が一層進行する2060年には１人の高齢者を１．２人で支える社会構造になると想定



（出所） 総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）：出生中位・死亡中位推計」（各年10月1日現在人口）

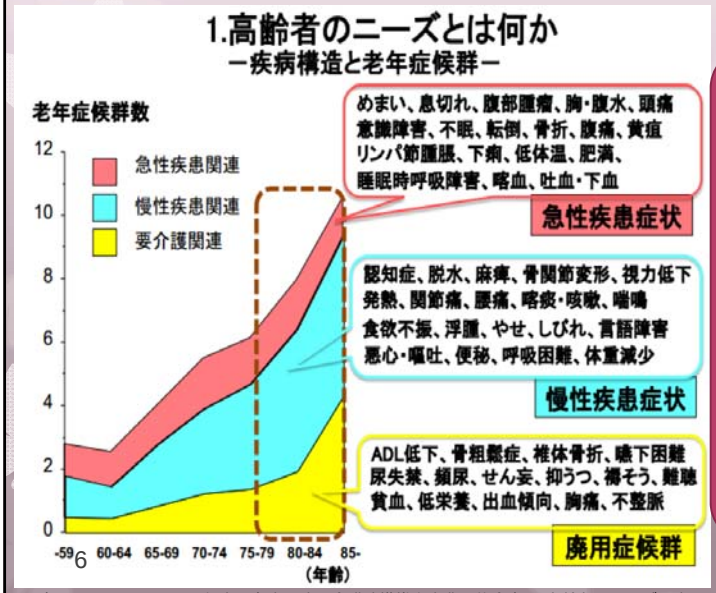
5

世界最速で超高齢社会を迎えた日本

急増する高齢者の生活を支える体制を
早急に整える必要がある
- ○医療機関の有効利活用
- ○公助の有効活用
- ○在宅医療の推進

5

○高齢者の病気・不調の特徴



年齢を重ねると

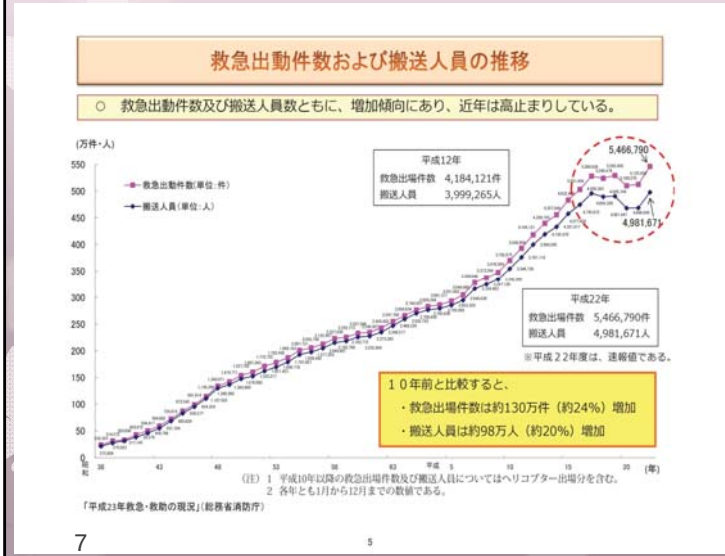
- ○ゆっくりと時間をかけて治療する病気が増える
- ○生活の中で、病気を調整していくことが重要
- ○永年の積み重ねて結果の不調が多く出てくる

生活とともに不調や病気と付き合っていくことが必要になる

6

鳥羽研二(2013).2013年度　在宅医療・介護連携推進事業研修会資料,高齢者のニーズに応える在宅医療,P7.
http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/pdf/jinzaiikusei/2013/kogi1_1022_toba.pdf

○救急医療の現状

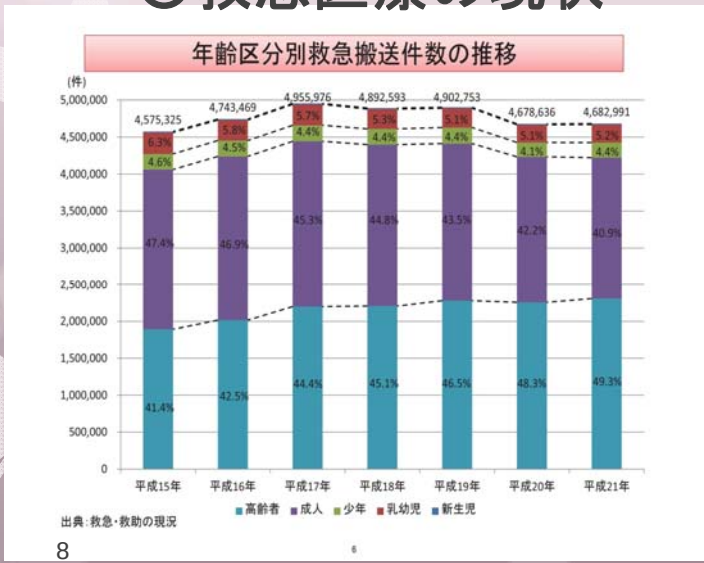


年々
救急車の
出動は
増加

7

厚生労働省　第１９７回中央社会保険医療協議会,総ー1,P5.
http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001s0rq-att/2r9852000001s0wb.pdf

○救急医療の現状

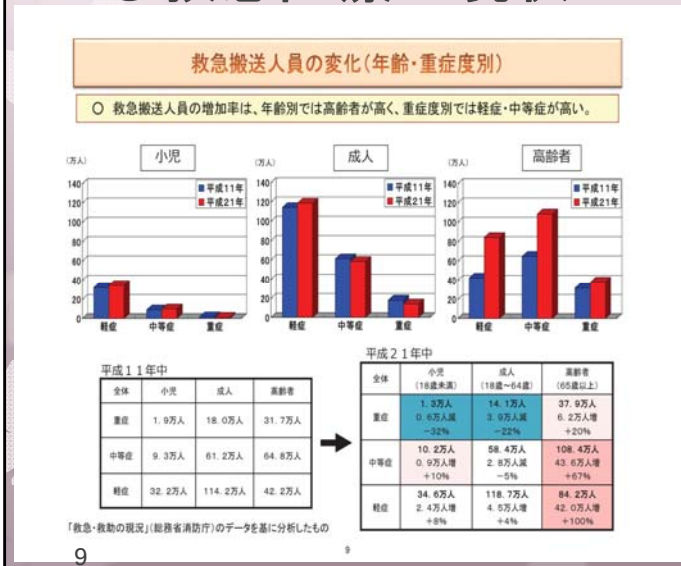


救急車で
病院に
搬送され
た患者の
年齢構成

8

厚生労働省　第１９７回中央社会保険医療協議会,総ー1,P6.
http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001s0rq-att/2r9852000001s0wb.pdf

○救急医療の現状

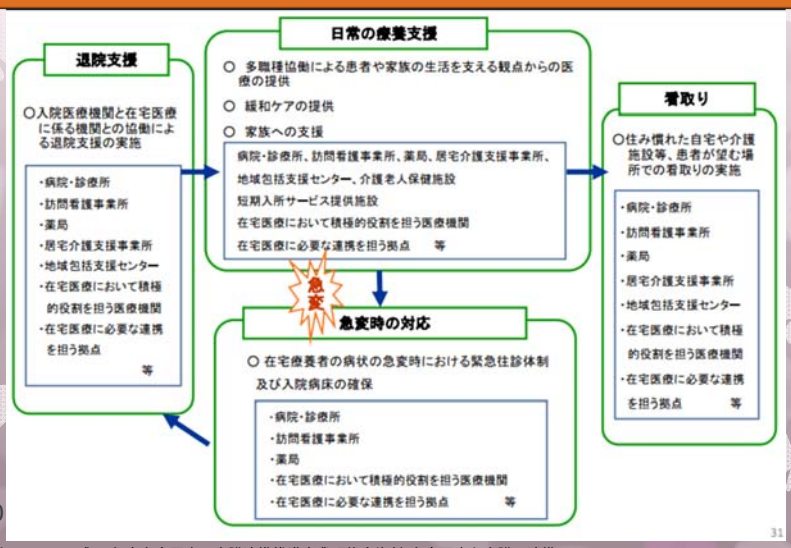


子供や成人
は
昔も今も
救急車の利用は
あまり変わらない

高齢者は
軽症・中等度
の利用が
多くなっている

厚生労働省　第１９７回中央社会保険医療協議会,総ー1,P9.
http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001s0rq-att/2r9852000001s0wb.pdf

本当に病院に行かなければならない時に病院を利用！
地域でも療養しながら生活できる体制を作る



10

佐々木昌弘(2013).平成25年度在宅医療・介護連携推進事業研修会資料,在宅医療と介護の連携について,P31.
http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/pdf/jinzaiikusei/2013/sym2_1022_nakura.pdf